

日本刀を詠ず（徳川光圀）

蒼龍猶未昇雲霄 潜在神州劍客腰
髯虜欲塵非無策 容易勿汚日本刀

解説 日本刀を素材に日本精神を詠じた詩。

蒼龍 猶お 未だ 雲霄に 昇らず

語釈 ※蒼龍Ⅱ名刀を竜にたとえた語。※雲霄Ⅱ空のはて。

潜んで 神州 劍客の 腰に 在り

※潜在Ⅱ潜んでいる。※神州Ⅱ日本国。神国に同じ。

※髯虜Ⅱひげ深い外人。虜は蛮族を卑しんでいう語。

※塵Ⅱみなごろしにする。

髯虜 塵にせんと 欲す 策 無きに 非ず

通釈 蒼い龍にも例えるべきこの刀は、まだ天に昇らないで、

淵に潜んで時を待つ龍のように日本人の劍客の腰の鞘に収

まっている。外国人どもを皆殺しにしようと思えば策が無い

訳ではないが、容易く大事な日本刀を簡単に汚してはならな

容易に 汚す 勿れ 日本刀

い。